

日本ハム株式会社
サステナビリティファイナンス・フレームワーク

1. 発行体概要

日本ハムグループ（以下、当社グループといいます。）は、日本ハム㈱（以下、当社といいます。）と子会社 83 社及び関連会社 9 社で構成され、各事業を管轄する事業本部とその位置付けは以下のとおりです。

〔加工事業本部〕

加工事業本部は、主に国内においてハム・ソーセージ及び加工食品の製造・販売を行っております。当社及び製造子会社の日本ハムファクトリー㈱、南日本ハム㈱、日本ハム食品㈱及び日本ハム惣菜㈱等が製造を行い、当社及び全国に販売拠点を有する販売子会社の日本ハムマーケティング㈱等を通じて販売を行っております。

なお、2021年3月期より寿司種や水産加工品を扱うマリルフーズ㈱、チーズ・缶詰・冷凍食品・フリーズドライを扱う㈱宝幸、ヨーグルト・乳酸菌製品を扱う日本ルナ㈱、食肉加工品・畜産エキスを扱う日本ピュアフード㈱が加わりました。

〔食肉事業本部〕

食肉事業本部は、主に国内において食肉の生産・販売を行っております。子会社の日本ホワイットファーム㈱、インターファーム㈱等が豚、牛及びブロイラーの生産飼育を行い、子会社の日本フードパッカー㈱等が処理・加工を行った食肉製品と、海外事業本部管轄の食肉販売子会社や外部から仕入れた食肉商品を、当社及び全国に販売拠点を有する販売子会社の東日本フード㈱、関東日本フード㈱、中日本フード㈱及び西日本フード㈱等を通じて販売しております。

〔海外事業本部〕

海外事業本部は、海外子会社及び海外関連会社を管轄しており、子会社の NH Foods Australia Pty. Ltd.、Whyalla Beef Pty. Ltd.、Day-Lee Foods, Inc.及び Thai Nippon Foods Co., Ltd.等が、主にハム・ソーセージ、加工食品、食肉及び水産物の生産・製造・販売を行っております。

2. 企業理念

1. わが社は、『食べる喜び』を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。
2. わが社は、従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する。

3. 経営理念

1. 高邁な理想をかかげ、その実現への不退転の意志をもって行動する。
2. 人に学び、人を育て、人によって育てられる。

3. 時代の要請に応じて時代をつくる。
4. 品質・サービスを通して、縁を拡げ、縁あるすべての人々に対する責任を果たす。
5. 高度に機能的な有機体をめざす。

4. 中期経営計画 2020

テーマ：未来につなげる仕組み作り

経営戦略：

- ① 既存事業の効率化による収益力の強化
- ② 消費者との対話を通じた価値の創造
- ③ 食の未来の構想／実現のための技術力強化・育成
- ④ 海外市場展開のギア・チェンジ
- ⑤ 持続可能性（サステナビリティ）の追求

5. CSRの5つの重要課題

当社グループでは、2016年1月に、重点的に取り組みを推進する課題を特定しました。特定にあたっては、国際的な動向やイニシアティブ等の社会からの要請、当社グループを取り巻く事業環境を踏まえつつ、ステークホルダーの視点と自社視点の両面から評価・検討を行いました。

・安全・安心な食品づくり： 「食べる喜び」をお届けする企業として、安全・安心のために品質を徹底的に追求することは基本です。また、より多くの皆様に安全・安心をお届けするため、食物アレルギーの取り組み、サプライチェーンの安全性などを追求していきます。

・食とスポーツで心と体の元気を応援： 食とスポーツを手掛ける企業として、食育活動、食文化の普及、スポーツの振興などを通して心と体の健康づくりに貢献しています。

・従業員が生き生きと活躍できる職場： 当社グループは、「従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場」となることを目指しています。そのために、従業員の意識・能力開発、ワークライフバランス、ダイバーシティ、心と体の健康維持などに取り組みます。

・将来世代の食の確保： 世界的な人口増加や経済成長に伴い、食資源への需要は増加する一方、供給にはさまざまな制約があります。また、国内では、畜産業の衰退が懸念されています。将来世代の食を確保するため、食品原材料の持続可能性への対応、国内畜産業の振興などを推進していきます。

・地球環境の保全： 気候変動などの地球環境問題には、責任を持って取り組む必

要があります。サプライチェーンにおける温室効果ガスの排出量削減、エネルギー利用の効率化を進めると同時に廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。

6. サプライチェーンへの取組

社会課題への取り組みの一つとしてサプライヤーとの関係構築につきましては、2017年4月「ニッポンハムグループ CSR 調達方針」「ニッポンハムグループ CSR 調達ガイドライン」を制定しました。

2018年度より方針のご理解とセルフチェックシートへの協力を要請し、2019年度までに国内の主原料サプライヤーを対象に80%をカバーしました。2020年度につきましては、海外のサプライヤーについても要請を開始しました。

7. プロスポーツチームの経営参画

当社は、プロ野球チーム「北海道日本ハムファイターズ」のゼネラルパートナーとして、またプロサッカーJリーグ「セレッソ大阪」のトップパートナーとして経営・支援を行っています。

「食とスポーツで心と体の元気を応援」する企業として、スポーツ文化の普及、市民スポーツの振興、地域社会への貢献に努めるとともに、選手たちが全力で戦う姿を通して感動や夢をお届けしています。

8. 当社グループとSDGs

当社グループは、持続可能な開発目標（SDGs）の達成のために企業に期待されている役割を認識し、課題の解決に積極的に取り組んでいきます。中でも2016年1月に特定した「CSRの5つの重要課題」に取り組むことが、持続可能な開発目標（SDGs）の実現と持続可能な社会の構築につながると考えています。

8-1. 環境（E）

当社グループは、自然の恵みに感謝し、持続可能な社会の実現に向けて、環境と調和のとれた企業活動を推進します。

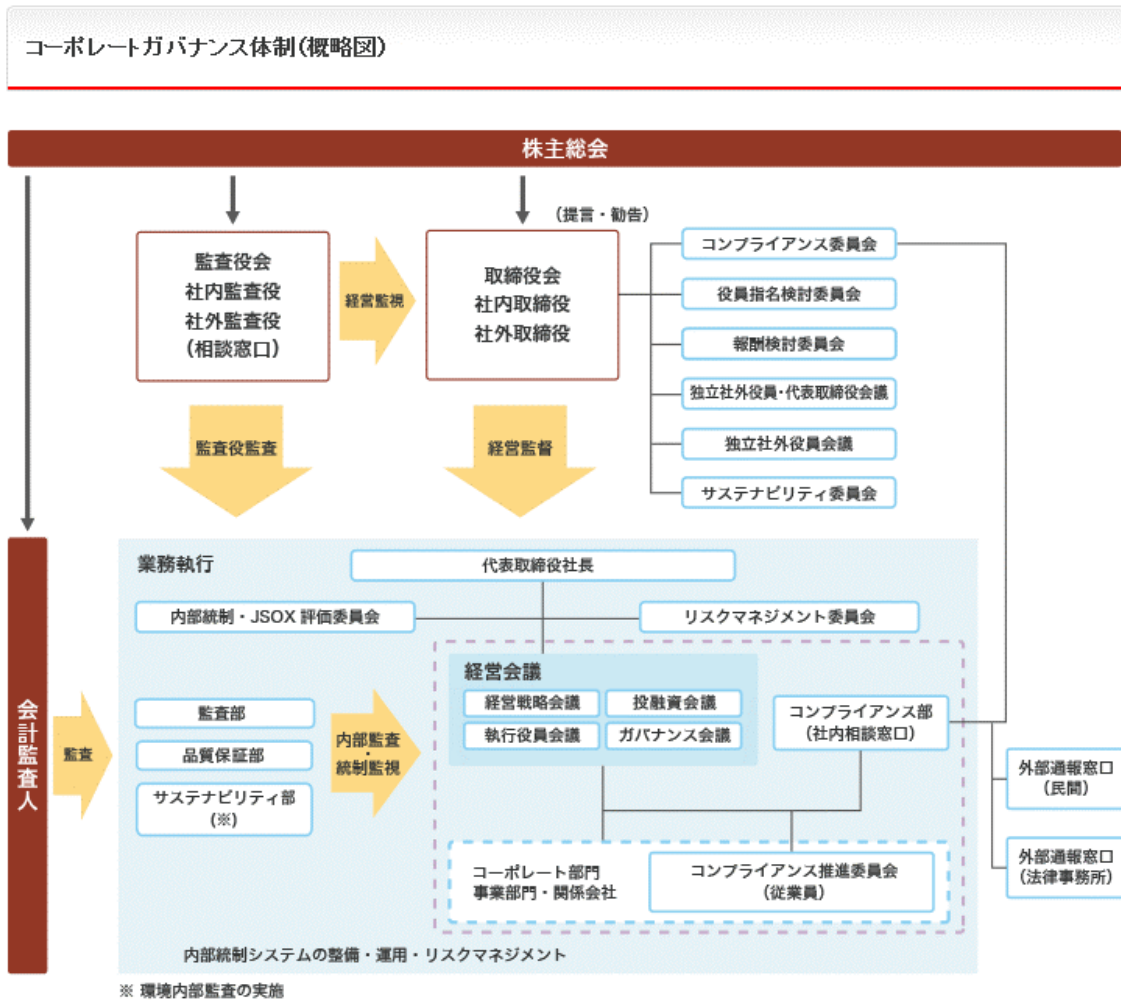
また、中期経営計画において、事業活動の環境負荷低減を目指した環境目標を3ヵ年ごとに策定しています。持続可能な社会の実現に向けて、環境負荷低減に努めると共に資源の有効利用に継続的に取り組んでいます。

8-2. 人と社会（S）

当社グループは、お客様、地域の皆様、お取引先様、株主・投資家、従業員などのステークホルダーの皆様からの期待、信頼に応える企業活動を推進します。

8-3. コーポレート・ガバナンス (G)

当社グループは、コンプライアンス経営の徹底とコーポレート・ガバナンスの充実を図り、グループ全体の経営の透明性と効率性を高め、企業価値の向上を目指しています。



9. サステナビリティファイナンスの活用意義

当社グループは、サステナビリティファイナンスを通じ、お客さま、地域・社会、株主・投資家、従業員をはじめとするステークホルダーに対し、改めて「CSRの5つの重要課題」などで掲げるサステナビリティへの取組みを発信します。こうしてステークホルダーからの「信頼」を高め、当社の持続的な成長につなげることを目的としております。

10. サステナビリティファイナンス・フレームワーク

10-1. 調達資金の用途

サステナビリティファイナンスで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす

「HOKKAIDO BALL PARK F VILLAGE(北海道ボールパーク F ビレッジ)」の新球場 (ES CON FIELD HOKKAIDO (エスコン フィールド HOKKAIDO)) 建設に関する支出又はリファイナンスに充当する予定です。リファイナンスの対象となるルックバック期間は、サステナビリティボンドの発行又はサステナビリティローンの実行から遡って36カ月以内となります。

	適格カテゴリー	適格クライテリア
グリーンプロジェクト	グリーンビルディング	DBJ Green Building 認証における5つ星
ソーシャルプロジェクト	必要不可欠なサービスへのアクセス向上	<p>(受益層①) 障がい者・高齢者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多機能トイレ ・車いす利用者専用駐車場 ・車いす用の観戦スペース ・盲導犬との同伴観戦スペース ・スロープ ・3 塁側ゲート大階段のエスカレーター <p>(受益者②) 自然災害の罹災者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄倉庫 <p>(受益層③) 若年層の弱者グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供向け無料遊具 ・多機能トイレ ・スロープ <p>(受益層④) 外国人等のマイノリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市公園内における案内板の多言語表記

【対象となる新球場の概要】

- ・当社グループは、北海道北広島市における新球場とボールパークの開業(2023年を予定)にむけて準備を進めています。
- ・建築面積5万平方メートル、収容人数は3万5000人で、地下2階の掘り込み式のフィールドを基点に地上6階建てまで観客エリアが広がります。屋根は2枚構造で、うち1枚が可動するリトラクタブル・ルーフを採用しています。天然芝の生育を促すため、開閉時間も考慮されています。
- ・新球場は、周辺環境との調和を第一に考え、建物中層部にテラスや屋上庭園を造るなど、

地域に溶け込むデザインになっています。

【対象となる新球場のコンセプト】

『“北海道のシンボル”となる空間を創造する』

食とスポーツを有機的に融合させることで健康を育み、道民・市民・ファンの皆様が愛着と誇りを持てる施設を目指します。

【イメージ画像】



特徴的なガラス壁面が織り成す圧倒的な開放感の実現



天然芝フィールドを実現する開閉式屋根



周囲の自然に溶け込む建築デザイン

10-2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

<環境・社会リスクの低減>

ボールパーク建設予定地や新しく整備を検討している道路の予定地周辺には、森林が広がっており、環境に配慮し、自然と共生した施設にするため、北広島市においてこの地域での環境調査が行われています。また、土地の造成を行うために必要な埋蔵文化財の調査も実施しています。環境調査については、今後もそれぞれの季節で引き続き実施する調査結果に基づき、自然環境を守るための対応策を検討することになっています。

対象事業の評価と選定のプロセスについては、日本ハム株式会社の経理財務部が適格クライテリアに適合していることを確認し、経理財務部の担当役員が最終決定を行います。

10-3. 調達資金の管理

サステナビリティファイナンスにより調達した資金は、償還されるまでの間、日本ハム株式会社の経理財務部にて内部管理システム・帳票等を用いて年次で充当状況を管理します。

なお、調達資金の充当が決定されるまでの間、現金または現金同等物にて管理する予定です。

10-4. レポーティング

調達資金の全額が充当されるまでの間、年に一回、充当状況を当社ウェブサイト上（「ニッポンハムグループ統合報告書」等）で開示します。

調達資金の充当後に資金状況の大きな変化が発生した場合には、調達資金の充当状況を示すレポートを当社のウェブサイト上にて適宜公表します。

① 資金充当状況のレポートニング

- 充当金額
- 未充当金の残高
- 調達資金のうちファイナンスに充当された部分の概算額（または割合）

② インパクトレポートニング

調達資金の全額が充当されるまでの間、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、年に一回、以下の情報を当社ウェブサイト上（「ニッポンナムグループ統合報告書」等）で開示します。

	適格カテゴリー	環境改善効果および社会改善効果
グリーンプロジェクト	グリーンビルディング	(建設期間中) ・ 認証取得手続きの進捗状況 (竣工後) ・ 環境認証の一覧 ・ エネルギー使用量 ・ CO2 排出量 ・ 水使用量
ソーシャルプロジェクト	必要不可欠なサービスへのアクセス向上	・ 車いす利用者専用駐車場の設置規模 ・ 多機能トイレの設置数 ・ 車いす用の観戦スペース規模 ・ 盲導犬との同伴観戦スペース規模 ・ スロープの設置数 ・ 3 塁側ゲート大階段のエスカレーター の設置数 ・ 備蓄倉庫における非常食等の備蓄量・子供向け無料遊具の設置数 ・ 都市公園内における多言語表記案内板 の設置数

以 上